

令和3年度 日南市立大堂津小学校 自己評価書



【学校経営ビジョン】

- ① 児童の健康・安全を第一とし、全職員が本校の教育目標を理解し、英知と創意工夫によってその具現化を図る。
- ② 児童理解のために、全教職員がコミュニケーション(報告・連絡・相談)を円滑にし、協働の意識と意欲をもち、「チーム学校」として、組織的に教育活動に取り組む。
- ③ 児童や家庭・地域の実態に即し、保護者や地域の期待に応える教育活動に取り組む。
- ④ 今後の教育の動向を見据え、組織力を発揮して児童に生きる力を育むとともに、全職員相互の資質向上に努める。

項目	達成手段	対象	内 容 【 評価 4 よい 3 だいたい 2 もう少し 1 よくない 】	評価	総合評価	考察及び改善策	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の定着と向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得、活用を図る授業の推進	職員	職員は、めあてとまとめ、ふりかえりのある授業やタブレットの効果的活用など、分かりやすい授業実践に組織的に努めている。	3.6	3.6	県の方針「授業改善の4+4のチェックポイント」を基に授業力向上に努めた。特にタブレットの効果的な活用では、その有用性を教師も児童も実感しており、積極的なICTの推進を行った。自然や地域素材を活用した体験的な活動も取り入れ、変化と工夫のある学習展開ができた。今後は、授業と家庭学習内容が効果的に連動するよう工夫し、基礎基本の確実な定着を図るようにしていく。	○今後もICT活用や少人数のよさを活かす授業づくりの工夫改善に取り組み、学力向上をめざすとよい。
		児童	わたしは、めあてやまとめを大事にしたり、タブレットを使って考えたりまとめたりして、学習内容を理解することができた。	3.7			
		保護者	学校は、授業でめあてとまとめを明確にしたり、タブレットを効果的に活用したりして、分かりやすい授業実践に努めている。	3.5			
各学力調査を活用した個に応じた指導の充実	各学力調査を活用した個に応じた指導の充実	職員	職員は、全国学力状況調査やみやざき学力調査、CRT検査など諸調査を活かした授業や個に応じた指導の工夫に組織的に努めている。	3.6	3.6	各種学力調査の結果と問題の分析をもとに授業分析を行い、求められる力に応じた授業の工夫改善に取り組んでいる。特に、情報を正確に読み取ったり、的確に表現したりする力の向上に課題がある。学力向上の取組やその成果などを保護者や地域と共有しながら、児童一人一人の学びを支える仕組みを整え、確実に機能させる。	○複式学級スタートにあたり学級の雰囲気や授業の効果等について検証し、その充実に「チーム学校」として積極的に取り組まれることを期待する。
		児童	わたしは、学力調査の問題を活かした学習をしたり、テストのやり直しをしたり、分からないことは教えてもらったりして、学習内容を理解することができた。	3.6			
		保護者	学校は、全国学力状況調査やみやざき学力調査、CRT検査など諸調査を活かした授業や個に応じた指導に努めている。	3.5			
カリキュラムマネジメント	カリキュラムマネジメント	職員	職員は、一部教科担任制やチーム・ティーチングなどの指導体制を活用し、子どもの能力を多面的に評価することに努めている。	3.6	3.7	全職員ですべての児童を指導・支援するという意識と体制で指導に当たった。特別支援教育の視点は重視しつつ、教科担任制や支援体制を充実させたことは、児童の能力を多面的に評価することにつながった。次年度は複式学級が2学級になることから、2カ年を見通した指導計画を整備する。また、交換授業等をさらに充実させることで教師の授業力の向上を図る。	○特別支援学級の児童が通常学級でも学び合えるカリキュラムは、双方向的により影響を与えると信じる。今後も推進するとよい。
		児童	教科によって担任以外の先生と学習したり、2人や3人の先生と学習したりして、先生たちとのふれあいを広げることができた。	3.8			
		保護者	学校は、一部教科担任制やチーム・ティーチングなどの指導体制を工夫し、子どもの能力を多面的に評価することに努めている。	3.6			

心の教育の充実	総合的児童理解	職員	職員は、教育相談をしたり家庭と連携したりしながら、子どもの変容やよさを認め、寄り添う指導に組織的に努めている。	3.8	3.6	毎月、いじめや不登校等に関するアンケートや教育相談を実施し、諸課題に対して迅速な職員間連携や保護者への報告、当事者のケアを重視した。また、児童よさや変容を認め、自己肯定感や自信を保護者と育めるような教師間や保護者との連携充実を図ってきた。児童の悩みの根底にあるものは複雑なことも多く、専門機関との連携を図りながら丁寧に対応していく。	○外見では見極めが難しいいじめや児童虐待がある。保護者や地域との連携を密にし、早期発見、早期対応をお願いする。
		児童	悩んだり、困ったりしたことは先生と相談して解決したり、目標をもってがんばったり、仲間のよいところを見つけたりして、学校生活を楽しくした。	3.4			
		保護者	学校は、教育相談をしたり家庭と連携したりしながら、子どもの変容やよさを認め、寄り添う指導に努めている。	3.5			
能動的な児童指導	能動的な児童指導	職員	職員は、SNSや交通、公園等の公共の場でのモラルについて、授業や通信などを通して、人権感覚や社会性を育む指導に努めている。	3.6	3.7	SNSや新型コロナウイルス感染症に関する人権教育、公園利用などのモラルや安全教育を保護者との共通理解を重視して取り組んだ。その際、失敗や間違いをチャンスとし、その変容や継続の過程を大切にされた。規範意識をもち行動する姿は、思いやりの行動として称賛していくことで、児童の自己肯定感や自信を育んでいきたい。	○SNSは多くの社会問題を引き起こす。一方で多くの情報を知れるよさがある。正しい使い方を保護者も学び子どもへ伝えていく必要がある。
		児童	SNSで悪口を書くことなどは人権侵害であることや公園や児童クラブなどでの過ごし方のまきりを守ることの大切さを理解することができた。	3.8			
		保護者	学校は、SNSや交通、公園等の公共の場でのモラルについて、授業や通信などを通して、人権感覚や社会性を育む指導に努めている。	3.6			
命の教育	命の教育	職員	職員は、道徳や総合的な学習、はまっ子班活動、運動会、修学旅行や宿泊学習などを通して、相手を思いやり命を大切する指導に努めている。	3.7	3.7	市施策の性に関する教育「レインボープラン」は、昨今の児童を取り巻く諸課題を踏まえた大切な内容で構成されている。実践後の通信や参観授業で家庭や地域の関心を高めた。諸行事等では、その過程での変容やよさを認める言葉かけや保護者との共有に努めてきた。学校と家庭で児童の良さを共有することで、より一層心豊かな大堂津っ子の育成を図る。	○思いやりの大切さ、本当のやさしさ、愛や命の大切さを何回も何回も重ねての指導をお願いする。
		児童	いろいろな行事や学習を通して、仲間と助け合ったり、思いやりのある行動をしたりして、楽しく充実した活動にすることができた。	3.7			
		保護者	学校は、道徳や総合的な学習、はまっ子班活動、運動会、修学旅行や宿泊学習などを通して、相手を思いやり命を大切する指導に努めている。	3.7			

健康の維持増進及び体力向上	危機管理能力の育成	職員	職員は、防災参観日や避難訓練、新型コロナウイルス感染防止対策、安全点検などを通して、危機や安全管理に努めている。	3.7	3.7	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、生活様式や人権感覚の徹底に努めた。また、親子防災学習や予告なし避難訓練、アナフィラキシー対応の模擬訓練などに実践的に取り組んだ。関係各所と連携し協力を得ることで、急傾斜地崩壊危険箇所及び防災避難階段が整備された。</p> <p>防災は本校の重要課題であり、今後も、家庭や地域との連携を工夫して、自分で命を守れる児童の育成や有事に迅速適確に対応できる教師集団の向上に努める。</p>	○危機管理を適切に行い親子防災学習で地域の避難場所を考えたことは意義深い。また避難経路が整備された。今後は、それを活かした避難行動の習慣化や地域住民を含めた防災訓練により危機意識の向上を図るとよい。
		児童	避難訓練や新型コロナウイルス感染防止対策などを通して、避難の仕方や手洗い、マスク着用などの命を守る行動を身に付けることができた。	3.9			
		保護者	学校は、防災参観日や避難訓練、新型コロナウイルス感染防止対策、安全点検などを通して、危機や安全管理に努めている。	3.6			
	健康教育・食育の推進	職員	職員は、虫歯治療率や基本的な生活習慣について周知や個人面談をしたり、弁当の日に取り組んだりして、健康と食育の推進に努めている。	3.8	3.6	<p>虫歯治療率80%をめざし、治療勧告に努め、1月現在70%に達している。また、生活習慣に関する個人面談を実施し、保護者と児童と職員と同じ方向性で改善に取り組んでいる。弁当の日は、作ることや準備することを通して親子のかかわりや感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>健康や食育は家庭との連携が大切であることから、啓発とともに個別の支援をきめ細やかに行っていく。</p>	○事故や怪我は、意外な場所で発生する。過去の怪我発生場所、危険な場所を再点検して再発防止に努めるとよい。
		児童	歯みがきの仕方や早寝早起きなどについて学習したり、弁当の日に取り組んだりして、健康や食べることの大切さについて学ぶことができた。	3.6			
		保護者	学校は、虫歯治療率や基本的な生活習慣について周知や個人面談をしたり、弁当の日に取り組んだりして、健康と食育の推進に努めている	3.5			
	体力向上プランの推進	職員	職員は、体育の学習を充実させたり、外遊びを奨励したり、食育を充実させたりして、体力の向上に努めている。	3.5	3.6	<p>コロナ禍で昼休みの遊びが制限される中で、対策を講じながら水泳や陸上などの学習内容を実施できたことは、子どもの運動欲求を満たす上で大きかった。栄養教諭等の外部講師や養護教諭による健康指導などの専門性を活かした指導は説得力があり効果的であった。</p> <p>コロナ禍にあり十分な運動量を確保できなかったことから、体力向上に向けた計画的な取組を行う。</p>	○コロナ禍による休み時間等の制限で、学習への集中やストレスが心配であったが、いろいろな良い対策を講じていた。今後も工夫によって子どもの活動充実を図るとよい。
		児童	体育の時間に一生懸命運動したり、外で元気に遊んだり、給食を食べたりして、健康な体になるようにした。	3.7			
		保護者	学校は、体育の学習を充実させたり、外遊びを奨励したり、食育を充実させたりして、体力の向上に努めている。	3.5			

学校運営の充実及び日南市教育施策の確実な実践	学校の教育目標の具現化に寄与する学校評価とPDCA	職員	職員は、学校評価をHP等で周知するとともに、その結果をよりよい学校づくりに反映し、工夫改善に努めている。	3.7	3.6	<p>学校評価を手がかりとして、学校経営ビジョンの構築と意図的計画的な実践に取り組むことができた。実践基盤に、児童のよりよい学校生活と安心安全に据え、全職員がチームとして報告・連絡・相談を徹底し保護者と協働的に取り組んできた。</p> <p>次年度も、学校教育目標の具現化のために、具体的な方策と評価指標を明確にした取組を行う。</p>	○評価点を対象別に平均すると、児童3.70保護者3.52職員3.68であった。いい点数である。
		児童	わたしたちが安心安全に過ごせるように、先生達は協力し合って、わたしたちの活動を見守ったり、わたしたちに話をしたりしている。	3.8			
		保護者	学校は、学校評価をHP等で周知するとともに、その結果をよりよい学校づくりに反映し、工夫改善に努めている。	3.4			
	コミュニティースクール制度、学校支援地域本部事業の活用推進	職員	職員は、学校運営協議会を導入し、地域人材・素材を活用した授業やPTAや青少協などの関係機関と連携して、地域と共にある学校を展開している。	3.6	3.6	<p>学校経営ビジョンの具現化を図るために、チームとしての組織力はもとより、学校運営協議会委員や地域、保護者からのご意見、PTA活動、地域コーディネーター、関係機関の協力が不可欠で支えとなった。</p> <p>次年度は、学校運営協議会を軸とした地域とともにある学校の創造をめざすためにも、保護者をはじめ地域の皆様の理解と協力を得る取組を行う。</p>	○全体を通して、高評価である。ただし、全ての項目において保護者の評価がやや低い。その差の原因は何であるか検討する必要がある。
		児童	生活科や総合的な学習の時間などで、地域の人や様子、産業などについて調べたりまとめたりして地域のことを学ぶことができた。	3.7			
		保護者	学校は、学校運営協議会を導入し、地域人材・素材を活用した授業やPTAや青少協などの関係機関と連携して、地域と共にある学校を展開している。	3.5			
	学校における働き方改革の推進	職員	職員は、学校における働き方改革として、登校時刻や電話対応時間などについて地域に周知し理解を求め、その実践に努めている。	4	3.8	<p>市の方針に基づき登校時刻や電話対応時間等について周知した。保護者や地域のご理解により、職員の働き方(やりがい感やワーク&ライフバランス)の工夫改善につながっている。放課後等にICT活用や教材準備の時間が確保できたことが授業改善につながった。</p> <p>働き方改革の目的は、児童と向き合う時間の確保と教育の質の向上であることへの理解と協力を得る。</p>	○コロナ禍で子どもの声あまり聞こえなくなった。しかし、小規模校ならではの、職員、保護者、地域がまとまり、その繋がり子どもが肌で感じているように思う
		児童	登校する時は、7時20分から学校に入れることを知っている。	3.8			
		保護者	学校は、学校における働き方改革として、登校時刻や電話対応時間などについて地域に周知し理解を求め、その実践に努めている。	3.5			
	情報発信と共有化	職員	職員は、HPや学校便り、学級通信等を発行したり、適時保護者に連絡をしたりして、情報発信や子どもの理解共有に努めている。	3.6	3.5	<p>学校便りは、自治会の協力を得て学校の様子を発信できて感謝している。学級通信や安心メールで適時連絡をすることができたりした。HP閲覧数も一日平均250件あり、関心を寄せていただいた。</p> <p>今後もコロナ禍で人と人とのかかわりが困難な場合も予想されるが、ICTを効果的に活用して発信したり、保護者との電話等での対話を充実したりして学びの見える化に努め、地域とともにある学校をめざす。</p>	○今、コロナ禍にあり、職員は大変な思いをされ、日々の教育活動を進めている。「教師の矜持」の大切さと「教師興利」の素晴らしさを後に味わって欲しいと思う。
		児童	学校便りや学級通信、保健便り、はまっこ通信などをお家の人に渡したり、お家の人と学校の様子について話したりしている。	3.6			
		保護者	学校は、HPや学校便り、学級通信等を発行したり、適時保護者に連絡をしたりして、情報発信や子どもの理解共有に努めている。	3.3			